

RICOH

Visual Communication

お客様導入事例



小規模校の複式学級同士をつないだ遠隔合同授業で、複式学級の課題を克服し、
全国初の新しい授業スタイルとして『徳之島モデル』を確立。

将来の教育現場を見据えた授業スタイルとして、期待が寄せられています。

鹿児島県徳之島町教育委員会 様

- 導入機種：RICOH Interactive Whiteboard(RICOH IWB) D6510 x 3台
RICOH Unified Communication System(RICOH UCS P3500) x 6契約
- 導入拠点：徳之島町立母間（ぼま）小学校、花徳（けどく）小学校、山（さん）小学校
- 児童数（2018年4月）：

Customer Profile

- URL：https://www.tokunoshima-town.org



複式学級での“わたり”ながらの授業では、
直接指導に充てられる時間は最大20分（45分授業）。
時間不足は否めず、詰め込み型の授業になりやすい
傾向がありました。



徳之島町立母間小学校
教諭 赤崎 公彦 様

鹿児島島の南南西492キロ、奄美諸島のほぼ中央に位置する徳之島。離島という地理的特性から、小規模校が多く、全小学校のうち62%が、2学年を1学級に編制した複式学級を抱えています。こうした徳之島の教育現場において、リコー ユニファイドコミュニケーションシステム（RICOH UCS）とリコー インタラクティブホワイトボード（IWB）を組合せた遠隔授業システムで、他校の複式学級とつなぎ、先進的な遠隔合同授業を『徳之島モデル』として実施。先生が各学年を行ったり来たり“わたり”ながら授業を行うため、児童を直接指導できる時間は最大でも20分です。1学年6～7名で15名くらいの複式学級となると、指導する時間がどうしても不足し、詰め込み型の授業となりがちです。そのため、主体的に学ぶ時間や理解を深める機会を、十分に設けられないことが、最大の課題となっていました。

導入の狙い

導入後の効果

複式学級の授業では、先生が児童を直接指導できる時間は、授業時間（45分）の半分以下。短時間でポイントを教える必要があり、詰め込み型の授業になっていた。

児童数が少なく、学習環境が固定化されるため、コミュニケーション力、社会性が育みにくかった。

1校あたりの先生数が少なく、意見交流の広がりには限界があり、指導技術の向上にはつながりにくかった。

先生が直接指導できる時間が、従来の2倍近くになり、授業の充実と、きめ細やかな指導が実現。

児童が多様な意見に触れる中で、自身の学びを深める一方、相手を理解する力、相手に伝える力も育てられている。

学校を超えた先生同士の交流と、画面の向こう側にいる児童を意識した授業展開が、先生の指導技術向上につながっている。

直接対面できる時間が、従来の約2倍に。

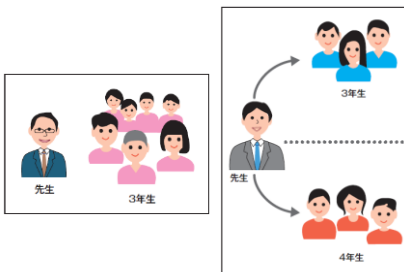
児童が多様な意見と触れ合う中で学びを深め、
社会性を磨いていけることに加えて、
先生の指導力向上や負担の軽減も実現しています。



すべての学年で5つの教科で遠隔授業システムを活用。操作性もシンプルで迷わず使えます。

遠隔合同授業で児童に直接指導する時間を計ったところ、20分から36分に増加しました。直接指導を従来の約2倍の時間確保できたことは、大きな効果です。母間小学校では、複式学級となっている3・4年生学級、5・6年生学級に加え、単式学級の1年生、2年生でも遠隔合同授業を実施しています。遠隔合同授業は、国語、社会、算数、道徳、外国語活動の5教科と幅広く実施しています。基本的には2校をつないで授業を行います。外国語活動では、UCSを導入している3校をつないで授業も展開しています。ALT（外国語指導助手）の先生が、月に1度しか学校に来られないため、3校をUCSでつなぎ、児童がネイティブな英語に触れる機会を増やしています。先日は、大きなスクリーンに3校の様子を映し出し、ジェスチャーで動物の名前を当てるクイズや、ALTの先生から発音を学ぶ授業を実施しました。

「徳之島モデル」授業を実施するには、先生同士の連携が不可欠です。UCSを活用しながら、3校で合同研修を行っています。校内の先生だけでは為し得なかった、幅広い意見交流や相談、研究の場ができたことで、指導技術の向上が図られています。さらに、画面の向こうの児童にも、集中してもらうために、先生一人ひとりが授業を工夫し、その手法を3校の先生で共有。教師の指導力の向上、授業内容の充実が図られています。また、遠隔合同授業では、先生が1学年を教えることに集中できるので、従来の複式授業（2学年を1時限で教える）に比べて、教える方の負担も軽減できます。遠隔授業システムである、RICOH UCSとIWBは、操作がシンプルで簡単です。迷わず使えるため操作性は100点です。少子化は離島だけではなく、日本全体の社会課題ですから、この「徳之島モデル」が、県内外の地域にも広がっていく可能性を感じています。



普通の学級：単式学級
ひとりの先生が1学年を教える

小規模校：複式学級
ひとりの先生が2学年教える



徳之島モデル：複式学級で遠隔合同授業A学校の先生がB学校の児童（3年生）を、
B学校の先生がA学校の児童（4年生）を、遠隔授業システムを使って教える

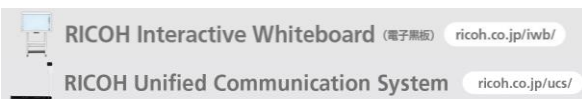


複式学級での遠隔合同授業の要旨。教室を学年ごとに仕切って、それぞれ遠隔授業システムで相手校に接続。

3大選定ポイント

- ① 教育現場で、日常的に使いやすい、シンプルで分かりやすい操作性。
- ② 授業に十分使える映像品質（RICOH UCS）と、教材画面と書込みがリアルタイムに共有（IWB）でき、離れた学校とも臨場感あふれる授業ができるシステム構成。
- ③ 島内にリコージャパンのサービス拠点がある安心感。

徳之島町教育委員会様のソリューション事例を、さらに詳しく、Webで。
http://www.ricoh.co.jp/case/1805_tokunoshima/



※本ちらし記載の会社名および製品名は、それぞれ各社の商号、商標または登録商標です。



本レポートは、リコーが提供する新しいクラウドサービスである Clickable Paper サービスに対応しています。
スマートフォン/タブレット端末用アプリケーション「TAMAGO Clicker」(無料)をダウンロードし、ページを撮影(クリック)すると、関連情報のあるインターネット上のサイトがご覧いただけます。
www.ricoh.co.jp/software/other/clickablepaper/

RICOH リコージャパン株式会社
imagine. change.

お問い合わせ・ご用命は

<http://www.ricoh.co.jp>